

種子から育てよう

小松菜

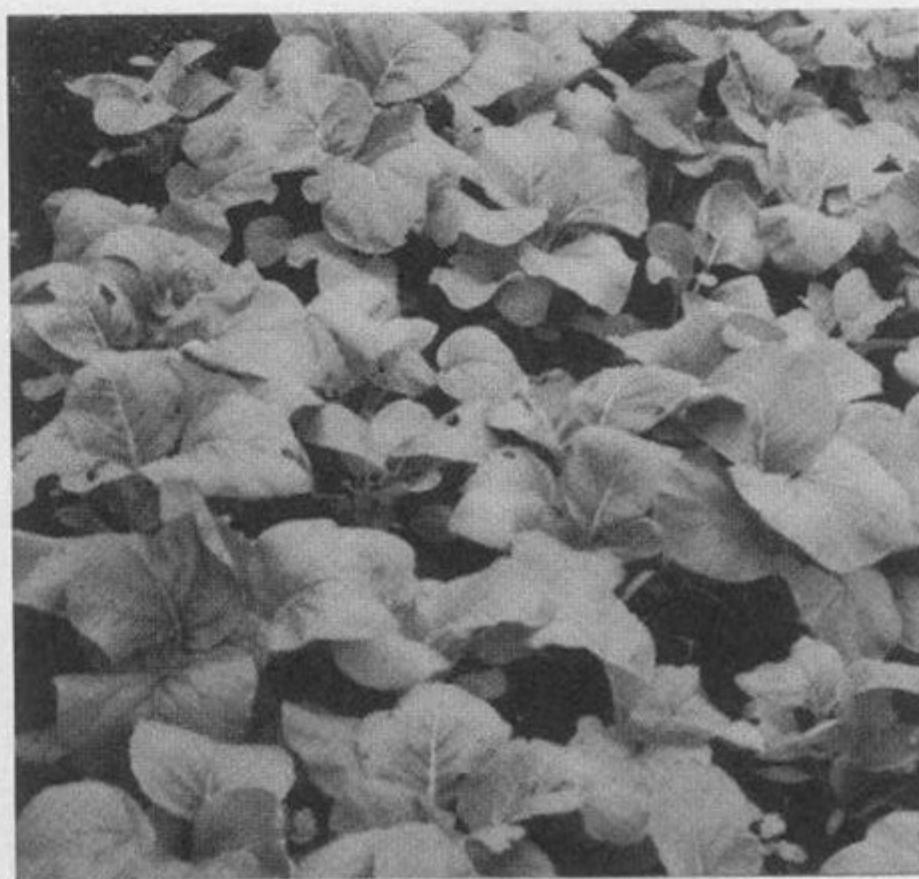
(十字花科)

大平 博四

品種Ⅱ城南小松菜。由来Ⅱ昭和初期より東京都目黒地区方面で栽培されて、市場の注目を浴びていた。姿形は、水菜に似ているが城南小松菜特有の姿形をして茎から上部の方に卵形の葉があり葉肉も厚く、味は甘味に富み、煮物や漬物用として重宝がられる。世田谷各地区には五十年前頃から栽培されるようになり、東京全域に栽培が広がるようになった。播種期は、三月中旬から十月下旬までで栽培期間で、十月下旬に播いたものは越冬させて、三月初旬頃から出荷できる。この時期には城南小松菜の特性が現れる。即ち姿形、肉厚、収量の多さである。播き方としては、できるだけ薄播きにする。七月から九月頃の季節には、生育が早く播種後十八日から二十日で収穫できる。

城南小松菜は、自家採種である。十月下旬に播いたものを三月中旬頃に城南小松菜の姿形をしているもの以外は抜き捨て、城南小松菜の姿形だけを残して採種にする。これを母本選定という。菜の花を咲かせ、充分に完熟したものを刈り取って更に、竹などにかけて乾かし、その後地面にシート等を敷き、

その上で踏みつぶして種を落とす。それを唐箕選をした種を日かげ干しにして乾き上がったものを種子とする。種子の保存は、冷暗所でガラス瓶や菓子カンなどに入れて保存する。最近有機農業研究会の種苗部会では、冷凍庫を備えつけて、種子の長期保存とする動きが考えられている。



頒布番号 14a-80308-2次
品種名 城南小松菜
作物名 葉菜
発芽率 85%以上 100%
内容量 5ml 住呈
日本有機農業研究会
種苗ネットワーク